

『多久いっばいの夏野菜カレー』づくりに挑戦！

給食センター 1日体験

多久市学校給食センターで7月26、27日の両日、1日体験があり、市内の小学4年生42人が参加しました。

1日体験は給食への理解を深めてもらおうと毎年夏休みに開催されているもので、今年のメニューは多久の農産物を使った『多久いっばいの夏野菜カレー』『焼きトウモロコシ』『フルーツゼリー』の3品。



▲給食が配送されるしくみや調理工程も学んだ子どもたち

子どもたちは、調理員らの指導のもと野菜を切るスライサーを使ってカボチャやナス、玉ねぎ、にんじんなどを調理。千人分作ることができる専用の大鍋で肉、野菜を炒め、特製のルーを加えて「おいしくな〜れ」と思いを込めて作りました。自分たちで作った料理を食べた子どもたちからは「作っている人の大変さが分かった。残さず給食を食べたいと思います」と調理員のみなさんに日頃の感謝の気持ちを伝えました。

体の変化を自覚し、そして責任を持って！

思春期保健講座

7月29日、母子健康センターで助産師の門田久代先生を講師に招き、思春期保健講座が開かれました。

毎年夏休みに開かれているもので、『いのちを大切に考える』をテーマに市内の中学生の親子や専門職員らが参加。はじめに親子で赤ちゃん人形を用いたオムツの交換や衣服の着せかえを体験しました。

門田先生は、小さな命の誕生を胎盤や子宮の模式図を用いて解説。続いて性感染症や人工妊娠中絶など性交渉に伴うリスク、避妊方法の説明を通して「成長期の身体と心の変化を自覚し、行動に責任を持って」と呼びかけました。

講座を終えて、中学生は「赤ちゃんとの接し方など授業ではできない体験でした」、保護者は「親子で性、いのちについて考える良い機会でした」と話しました。



▲赤ちゃん人形を使ってオムツの交換や衣服の着せかえを体験する参加者

競技力アップ！スポーツ栄養料理教室

8/4

市内の中学生を対象にスポーツ栄養料理教室が開かれ栄養指導と調理実習が行われました。8月4日は西溪中で野球部とバレー部23人が参加。

学校栄養職員の畠山さんが「自分の食生活をチェックし、毎日の食事を意識して食べて」と指導。調理実習では、給食センター調理員の岸川さんが「料理の楽しさと調理のコツを覚えて」と話し、『夏野菜の味噌汁』『豚肉の生姜焼き』『ゆかりおにぎり』など5品を作りました。



婦人会の手から、婦人会の手へ支援物資届ける

7/28 ~ 7/30

多久市地域婦人連絡協議会（西山智恵子会長）は、会員を中心に支援物資を集め、被災地へ届けました。これは岩手県婦人会から佐賀県婦人会へ協力依頼があり、仮設住宅入居のための支援物資を届けたものです。多久市からは3トン車いっばいの布団や食器などを、佐賀県婦人会へ搬出。集められた物資は7月28日に佐賀を出発し、岩手県の各避難所に届けられました。同行した西山会長は、「婦人会の組織があるからできたこと。婦人会の力を感しました」と話しました。

